

第32回泌尿器科漢方研究会学術集会

代表幹事:堀江重郎(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

日時:2015年6月20日(土) 13:00~18:05

会場:コクヨホール(東京都)

後腹膜線維症における漢方薬の使用経験

東邦大学 泌尿器科学講座¹⁾日産厚生会玉川病院 泌尿器科²⁾帝京大学溝口病院 泌尿器科³⁾

○鈴木九里¹⁾、齋藤雅享¹⁾、中西雄亮¹⁾、青木 洋¹⁾
 田村公嗣¹⁾、田井俊宏¹⁾、永田雅人¹⁾、山辺史人¹⁾
 田中祝江¹⁾、小林秀行¹⁾、永尾光一¹⁾、中島耕一¹⁾
 五十嵐一真²⁾、関根英明³⁾

後腹膜線維症の治療にはステロイドを使用するが、ステロイド中止による再発が高く、低用量のステロイド維持療法を続けることが多い。また、柴苓湯と併用することで、ステロイド離脱の報告も散見している。今回、後腹膜線維症における補中益気湯の使用経験について報告する。

症例1は67歳女性で、背部痛、両側水腎症にて来院。両側尿管ステントを留置した。CTで後腹膜線維症を疑い、ステロイド療法を開始した。柴苓湯を併用したが、気分不快が出現したため中止し、補中益気湯へ変更した。両側水腎症は改善したため尿管ステントを抜去、下部尿管周囲の肥厚も軽快した。ステロイド減量のち中止。補中益気湯のみで経過観察をしていたが、再発は認めなかった。

症例2は81歳男性で、他院で後腹膜線維症と診断され2004年よりステロイド治療をしていた。ステロイド中止にて再発したため、ステロイドの低用量維持療法施行していた。当院へ紹介され、補中益気湯を併用後、徐々にステロイドを減量し中止した。補中益気湯単独内服で1年半経過するも再発兆候は認めていない。

症例3は31歳女性。出産後右背部痛、右水腎症で来院。CTにて右上部尿管周囲の肥厚を認め、後腹膜線維症が疑われた。授乳中もあり、補中益気湯のみ投与をした。補中益気湯投与後4カ月目のCTで右水腎症の軽減、右上部尿管周囲の肥厚の軽減を認めた。しかし、6ヶ月目、右背部痛が再度出現し、水腎症が増悪。授乳終了となっていたためステロイド療法を開始した。現在ステロイドおよび補中益気湯を併用し治療中である。

補中益気湯は柴胡剤の一種でもある。柴胡剤はステロイド作用を示すと言われており、後腹膜線維症に柴苓湯を併用にて良好な結果をえられた報告が散見している。しかし、柴苓湯は実証に使用することが多い漢方製剤で、虚証の患者には使用しにくい。また、授乳中の患者への安全性が不明瞭である。今回1, 2症例とも虚証であったため、補中益気湯を使用し予後良好であった。また、補中益気湯はIgA腎症やアレルギー性皮膚炎の乳幼児に母乳を通して内服させ良好な結果を得たとの報告があり、症例3には補中益気湯を単独投与を選択し、一時的には後腹膜線維症は軽快したが、治療効果の持続性を得ることができなかった。研究会では症例3のその後の経過を含め報告する。